



2025年 7月29日
第18号

JR 東労組 Yokohama



J R 東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横浜地本第30回定期大会③（大会発言要旨）

組織強化・拡大について

- ・執行委員会では必ず議題の一番最初に、「職場での出来事」、「一人ひとりの実践」を出し合って共有して、執行部の共通認識としてきた。
- ・統括センター内にいる営業職場組合員の団結強化のために、分会結成をめざしている。
- ・知らない組合員をつくらないとして、職場集会の開催をしていく。
- ・職場集会では好きな時間に組合員に来てもらう方式から、「時間制」を採用し、最初から終了までの参加にこだわり、組合員同士の意見交換を実現してきた。
- ・集まって話すことの大切さを再認識。新しい施策で、自ら制度に飛び込み競争を選ぶことも、諦め感で自暴自棄になることも資本の思惑通りになる。
- ・新たな組織と働き方、特に管理者としての役割が非常に重要。管理者は部下社員を評価の対象としか見れなくなる。そのことばかり気にしては、他の仕事にも影響が出てしまう。そのことによって、心を壊してしまう不安がある。主務職の人はより大変な状況になるのではないかと危惧する。これからは血の通った人の心、母の心で接していく。

2025JR総連春闘について

- ・メッセージ行動100%貫徹、全職場から集会の参加を呼び掛けきた。
- ・多く出たように見えるが、大手会社の最低ライン、物価が上がっているのに賃金も上がっているように感じない。生活実感が沸かない内容だった。

過半数代表選に向けて

- ・組合員から過半数代表選の意義について語り、得票数を積み上げてきた。
- ・職場の問題や改善点を安全衛生委員会で議論してもらうために、組合員の意見をまとめた要望書を過半数代表者に提出している。
- ・普段の業務に真摯に向き合い、どうすればグループ全体で仕事がやりやすくなるか実践した結果、票の獲得につながった。
- ・労働組合の必要性・過半数代表者の重要性を訴えていく。チェック機能は安全や職場を守る上でとても重要。諦めるわけにはいかない。

職場諸問題について

- ・カスタマーハラスメントが大きな社会問題となり、それに断固として対応する企業が増加する中で、当社もカスハラに対するガイドラインを設け、カスハラを断固拒否していくという姿勢を示したが、1年近く経ってもカスハラに対する具体的な会社の方向性は見えてこない。そんな中、カスハラ被害にあった。カスハラが発生する原因の一つに、過剰サービスが挙げられる。当社では絶対的にお客さま優位という考えがあり、定時運行が当たり前になり、1分の遅延でも遅延証が求める人、許さない人がいる。過剰なサービスの提供は、消費者の当たり前基準を高め、満たされないと苦情を訴えるといった悪循環を作り上げていく。それには、毅然とした対応が必要だが、現場管理者の多くは兎に角。その場を丸く納めることに必死で、ガイドライン通りにはなっていない。このような管理者の姿勢を是正すべく声をあげることが大切だ。世間の会社では、既に名札をつけていない企業もある。JR東日本も早くそうなれば良い。
- ・職場での労働環境、熱中症について6月1日に改正労働安全衛生規則が施行。熱中症の重篤化を防止するため、体制整備、手順作成、関係者への周知が事業者には義務付けられている。しかし、今の会社に頼りっきりになるのは危険。これまで、色々守ってくれない会社を知っているから。自分たちを守るのは自分たちしかない。
- ・地本ワンマンプロジェクト会議においても乗務員からの目線だけでなく、駅輸送及び営業社員から見た課題や不安点を集約して、今後実施されるワンマン化施策に向かっていきたい。
- ・南武線ワンマンについて、支部が地本政策フォーラムで提言した提言内容で危惧した通りの展開になっている。南武線のワンマン運転は成功しているとは言えない。例では停車時分不足。団体交渉で訴えたことがそのまま現実に現れている。
- ・安全及びサービスレベルが低下している。その中で、乗務員手当の廃止、特にワンマン加給も廃止では納得できない。モチベーションが上がらないという声が上がっている。労働実態が現状の中での特殊勤務手当廃止は反対だ！

安全で安心して暮らせる社会実現に向けて

- ・職場の意見を吸い上げ、声をあげられるのは東労組しかない。安全や働きやすい職場・生活を守るために組合の必要性を訴えていく
- ・仙台地本旅のプレゼント、スペシャルオリンピックス日本・神奈川の取り組みに参加。参加者との触れ合いを通じて、人間性を育み、学ぶことを実感した。
- ・沖縄平和研修に参加して、沖縄の地が虐げられている現実は何も変わらない。むしろ、酷くなっていると感じた。強いものが弱者を切り捨てるという構図は、まさに現代社会でも当てはまると感じた。

安全再確立に向けて

- ・インバウンドでお客さま、外国人旅行者が戻ってきているなかで改札業務が1減。一人当たりの業務量は何倍にも膨れ上がり、みんな疲弊している。働きやすい職場環境をつくり出していく。
- ・横浜線ワンマン運転を開始しようとしている。何かあった場合に誰が責任を取るのか？ホームドア・ワンマンでは安全の担保は取れない。ワンマンプロジェクト会議で発言し、会社にぶつけていく。
- ・ワンマン運転について、横浜地本と仙台地本との意見交換会を開催した。早めに対策を打つために他職場との情報共有は必要不可欠。相模線は運転時分や停車時間を長くすることをせず慢性的な遅延が発生。運転時分・駅での停車時間を長くすることはサービス低下として、ダイヤの見直しに会社は消極的。しかし、お客さまは時間通りに到着できないこと・乗り換えたい電車へ乗れないことに不満を感じているのではないかと。ゆとりある運転時分と停車時分・負担の少ない行路を勝ち取るために粘り強く会社に訴えていく。

**各支部大会における代議員の発言内容も含め
今後申し入れを提出し、会社と議論していきます！**